

AI × まちづくり

"まちづくり"に人工知能（AI）や自動運転を活用



調印式の様子 神達市長と本田技術研究所 大津啓司社長（写真左）

6月30日、市とHondaの研究開発子会社である株式会社本田技術研究所は、AIや自動運転などの先進技術を活用した知能化マイクロモビリティと、それらモビリティを支えるまちづくりの実現を目指した「AIまちづくりに向けた技術実証実験に関する協定」を締結しました。

少子高齢化や多忙な未来社会、そしてアフターコロナの社会では、マイクロモビリティによる人とモノの自由で安全な移動のニーズが増加することが予想され、地域社会においては、魅力ある仕事・住みやすいまちを実現するための地域活性化が求められています。

地域を活性化する人びとの移動と暮らしの進化に向け、まちづくりに関する課題分析、AIや自動運転などの先端技術を活用したアイデアの創出、及びその技術実証実験を両者で行っていきます。

これらの取り組みにより、新たなまちづくりの可能性を検討していきます。

※マイクロモビリティ・・・クルマとバイクの中間に位置付けされるコンパクトで小回りが利く、環境性能に優れた電動モビリティであり、地域の手軽な移動の足となる1人～多人数乗りを想定した車両

常住人口のうごき(令和4年7月1日現在)※()内は前月比
男30,140人(+16)/女29,901人(-2)/合計60,041人(+14)
外国籍住民5,841人(+90)/世帯数22,909世帯(+78)

